

# 昭和37年度調査研究概況

## I 総合研究

### 1 平城宮跡発掘調査

歴史研究室 横本亀治郎 坪井清足 田中 稔

田中 琢 岡田茂弘 河原純之

狩野 久 岩本次郎

建造物研究室 森 圭章 浅野 清 杉山信三

工藤 圭章 沢村 仁 牛川喜幸

本年度は第9、10、11次にわたって調査した。(本文2頁参照)

### 2 西大寺調査

美術工芸研究室 守田公夫 長谷川誠 清野智海

歴史研究室 田中 稔 狩野 久

本年度は美術工芸研究室では工芸作品を調査の主

体とし(本文10頁参照)、歴史研究室は後述のよう

に中世および近世文書を調査した。

古文書班は中世および近世文書に重点を置いたが、

その量が膨大なため完了することはできなかつた。

しかし中世文書はもとより集会引付・日次記・奈良

奉行所御帳書控等の史料価値高い近世文書も少くな  
かつた。

### 3 仁和寺の研究

建造物研究室 杉山信三

歴史研究室 田中 稔

狩野 久

前々より引き続き舍利塔の様式的研究を行つてゐる。  
唐招提寺の舍利塔は一応調査を終り、学報14冊に発  
表した。遂に、公表の準備を進めてゐる。

## 美術工芸研究室 清野智海

調査の重点は仁和寺塔中蔵に置いたが、別に重要  
文化財「別尊雑記」の調査ならびに写真撮影を行つ  
た。塔中蔵については第41箱—102箱までの調査を終  
了した。

### 4 日本古代都城制の研究(文部省科学研究費交付 金による機関研究)

歴史研究室 横本亀治郎 坪井清足 田中 稔

田中 琢 岡田茂弘 狩野 久

建造物研究室 森 圭章 浅野 清 杉山信三

工藤 圭章 沢村 仁 牛川喜幸

大和盆地北半の航空写真37枚を作成、佐紀町ほ  
かの地籍図、正倉院文書、西大寺文書などについて

関係資料をあつめ、今後これらの基礎資料と実測調  
査、現地調査を併行させることによつて、平城京の  
復原研究を進めていきたい。

### 5 仏具の様式とその構造の編年的研究 (文部省科学研究費交付金による研究)

研究担当者 守田 公夫

研究協力者 清野 智海

本年度は既に調査されてはいるが未整理のまゝに  
あつた近県社寺の仏具に関する資料の分類整理を行  
い、協力者は思想構造を中心に「仏具」を老練し関  
係資料を摘出した。

### 4 藤原彫刻の研究

長谷川 誠

藤原和様の形成とその様式の変遷を研究するため  
に、造立年次の確かめられる作例を調査しているが、  
本年度は主として従来の調査による資料と文献資料  
とを整理検討した。

### 5 仏像納入文書集成のための調査研究

守田 公夫 長谷川 誠

平安時代以降の仏像に奉籠されている文書を集め  
するもので、現在從來調査収集した35例を整理中で  
ある。

## 2 工芸作品に見られる文様の日本の展開の研究 守田 公夫

本研究は多くの工芸作品文様を外来的と日本的と  
に大別して、その発展過程を辿ることにおいて、文  
様の日本の展開の様相とその作品のもつ美術工芸的  
価値を研究する。本年度は図版に収められた工芸作  
品から分類し、さらに各地区において調査した工芸  
作品の写真をも分類した。

### 3 仏具の様式とその構造の編年的研究 (文部省科学研究費交付金による研究)

研究担当者 守田 公夫

研究協力者 清野 智海

本年度は既に調査されてはいるが未整理のまゝに  
あつた近県社寺の仏具に関する資料の分類整理を行  
い、協力者は思想構造を中心に「仏具」を老練し関  
係資料を摘出した。

### 4 藤原彫刻の研究

長谷川 誠

藤原和様の形成とその様式の変遷を研究するため  
に、造立年次の確かめられる作例を調査しているが、  
本年度は主として従来の調査による資料と文献資料  
とを整理検討した。

### 5 仏像納入文書集成のための調査研究

守田 公夫 長谷川 誠

平安時代以降の仏像に奉籠されている文書を集め  
するもので、現在從來調査収集した35例を整理中で  
ある。

## 6 わが國木彫の材質及び技法についての実証的調査研究（文部省科学研究費交付金による研究）

長谷川 誠  
査研究（文部省科学研究費交付金による研究）

木彫の造形技法をその材質との相関関係で調査研究しようとするもので、本年度は主として唐招提寺講堂の諸像を調査し、特にティピカルな作例である伝業師如来像、伝衆魔王像の原寸大実測図を作製した。

7 兩界曼荼羅の思想構造とその图像学的研究に関する研究

清野 智海

本年度は九会金剛界曼荼羅図の成立に研究の焦点をおいた。まず、梵・藏・漢藏の一金剛頂經一系經典から图像的要素を抽出し、それが我が国の文献資料や遺品とどのように関連づけられるか、あるいは大陸的なものと日本的なものの差異を中心考察を深めた。

8 平城京諸大寺を中心とする仏教絵画の調査研究

清野 智海

36年度実施の西大寺絵画調査の遺品のいくつかを再検討した。とくに「仁王会本尊像」に関する様式史を解明するため、主として「仁王会」「仁王経」五大尊の資料を蒐集した。

B 建造物研究室

東寺および西寺の発掘調査

杉山信三 工藤圭章 沢村 仁  
岡田茂弘 牛川喜幸 河原純之

昭和37年度調査研究概況

## 東寺の調査は、京都府教育庁の依頼によつて、昭

和37年9月同寺境内の排水路工事の際にこなつたもので、基壇延石の発見と、瓦堆積層と基壇盛土層の関係を検出し、東寺軒廊の位置を知ることができた。

この結果を参考して、昭和37年12月、科学研修費による西寺の発掘調査をおこなつた。（西寺発掘調査報告概要是本文23頁参照）

## 2 興福寺一乗院の調査

森 蘭 杉山信三 工藤圭章

沢村 仁 牛川喜幸

このたび奈良県府近一帯の整備工事に伴い、一

乗院宸殿・殿上は唐招提寺境内に移築することになつた。

改体移建にさきだつて、昭和37年7月、建造物室は奈良県教育委員会による宸殿・殿上の調査に協力し、また建物撤去後の38年3月、地下調査をおこなつた。調査結果、宸殿・殿上の再建当初の平面がしられ、また隅木上端墨書銘から宸殿の再建が慶安2

年3月であることを確認し、また発掘によつて尋尊僧上筆の一乗院主殿之図と同様の遺構を検出した。

3 小堀遠州関係資料の収集とその整理

森 蘭 牛川喜幸

小堀遠州の各方面にわたる実績調査に先立ち、家譜書状その他の記録によつてその遺産に關与したことが明かとなつてゐる慶長初年度から寛永末年にかけての関係資料を收集、複製を作ることができる。

（本文29頁参照）

## 4 奈良市内の庭園調査

森 蘭 牛川喜幸

従来詳細な調査のすんでいない奈良市内の古庭園のうち、東大寺龍松院、今西家（福智院町）、依水園等の実測調査を行つた。

C 歴史研究室

坪井清足 田中 琢 岡田茂弘 河原純之

森 蘭 工藤圭章 沢村 仁 牛川喜幸

発掘調査は昭和37年11月から浅野清を担当責任者としておこなわれ、歴史・建造物両研究室がこれに協力した。

検出した遺構は金堂・講堂とみられる建物遺構であつて、金堂跡では凝灰岩切石の壇上積基壇がよく遺存し、講堂跡では礎石や仏壇も検出された。出土遺物には鷗尾片のほか金銅仏手、塔心、三彩火舍等がある。

2 南都諸大寺関係文書の調査研究

田中 隆 猪野 久 岩本次郎

前年度以前より継続実施中の興福寺所蔵の文書典籍調査を行つた。また興福寺と不可分の関係にある春日神社旧社家の大官（兼守）文書・辰市（祐正）文書を調査したが、中でも大官文書は未紹介の文書が多く、質量共に優れたものである。

3 唐招提寺經典類調査

田中 隆 猪野 久

昭和37年8月より9月にかけて実施した。（本文

34頁以下参照）